

国立大学法人法施行から10年:「大学改革とイノベーションへの貢献」シンポジウム
2013年10月12日(土)、東京大学 伊藤国際謝恩ホール

パネル討論「社会のための研究推進と産学連携」 国立大学法人10年の成果と課題

—大学研究者として、産学連携本部長として—

保立和夫

東京大学 大学院工学系研究科 教授
東京大学 産学連携本部 本部長

hotate@sagnac.t.u-tokyo.ac.jp

「大学の研究」と「課程博士の意味」

大学のミッション：
大学の研究は、「**独創研究**」で
なければならない

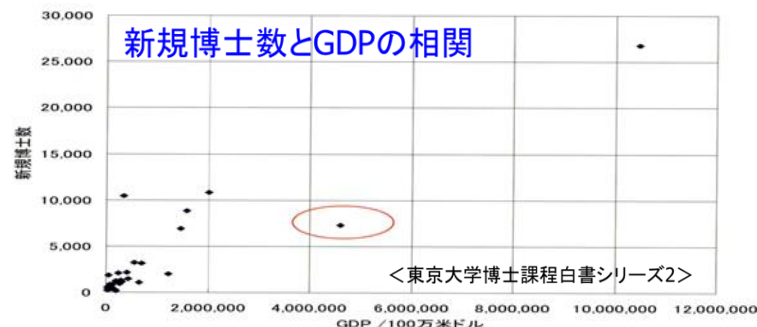
オリジナリティの根源1
学んで**思い**、**思い**て学ぶ

縦の棒の太い T型学習！

オリジナリティの根源2
「**こだわり**」

＜課程博士号取得者＞

- ・新たな研究成果を成し遂げた経験
 - ・「課題発見能力」と「課題解決能力」
+ 斬新な成果を創造する力
+ 斬新な成果の価値を見抜く力
+ 斬新な成果を活用する力とマインド
+ 斬新な成果を尊重し合うマインド
- 「課程博士号」は「イノベーション」に
寄与できることを示す「パスポート」
博士人材が、社会の、企業の、様々な
部署に配置されていることが必要



大学研究者としての産学連携

1979 光ファイバジャイロの研究スタート

- ・初めての明細書原稿自筆／特許成立
- ・基本技術の研究成果と世界の研究動向の啓蒙
- ・企業との共同特許出願／成立／ロイヤリティ収入
- ・共同特許出願:[発明者+特許権者] or [発明者]



我が国初の光ファイバジャイロ (Hotate, 1979)

・「保立君ね、僕達はエンジニアなんだから、世の中に残る技術を作りたいよね！」(博士指導教官)

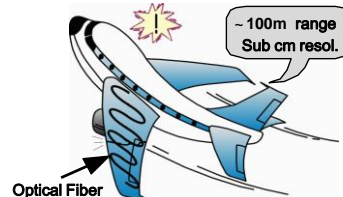
・「菓子折りひとつで渡していいのこんな先端技術」

1993 先端科学技術研究センター所属

1997 光ファイバ神経網技術の研究スタート

- ・基本特許(共同特許)の出願／成立
- ・機能向上技術の共同発明／共同特許申請／成立

Ex.4 Nerve System for Smart Materials



痛みの分かる航空機

・落語「試し酒」の久蔵さん: 課程博士の意味

「個人」と「組織」



「組織」と「組織」

2004 国立大学の法人化

- ・産学連携本部活動スタート
- ・神経網技術機能向上手法の単独発明／特許申請／成立
- ・当方技術の展開研究に関する共同研究契約の不成立
- ・実用化の為の共同研究スタート／プロトタイプモデル製作
- ・種々の応用開拓の為の共同研究スタート／共同特許申請

・「理学は神と語り工学は社会と語らう」

2011 産学連携本部長に就任

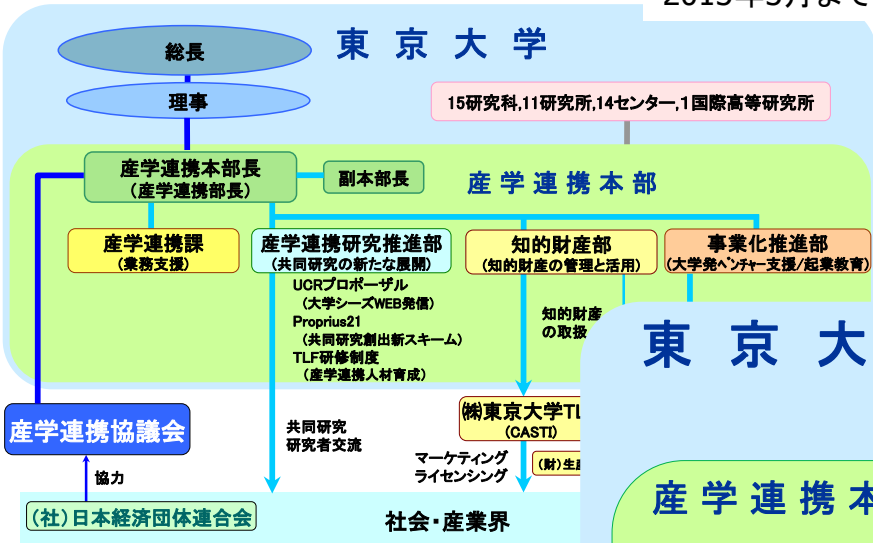
- ・イノベーションにより貢献する為の組織改編の検討スタート

・「歩幅の広いイノベーション」

2013 産学連携本部体制の改編:イノベーション推進部の設置

産学連携本部の新体制

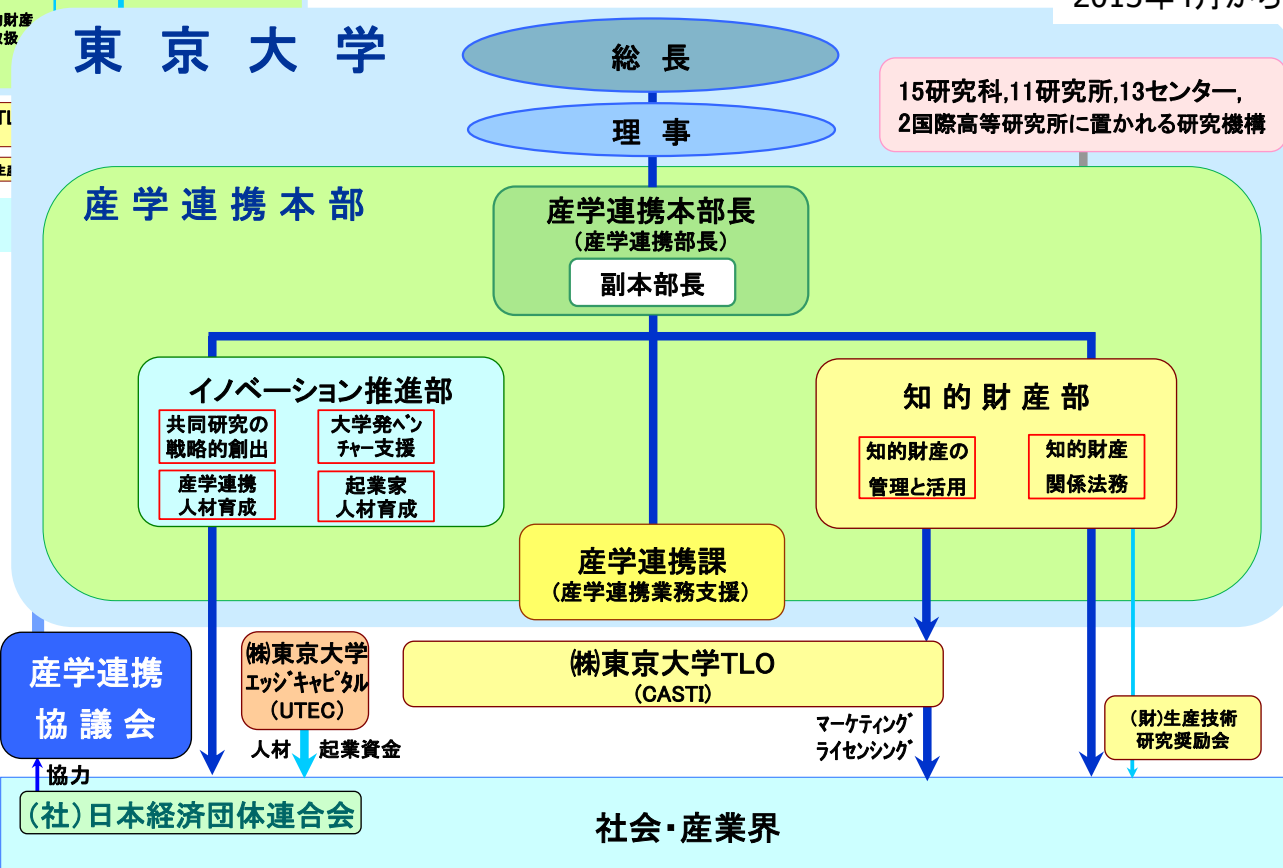
2013年3月まで



- ・産学連携研究推進部:
UCRプロポーザル、Proprius、産学連携フォーラム、...
- ・知的財産部: 知的財産の管理と活用、関連法務、...
- ・事業化推進部: 企業家人材育成、インキュベーション、...
- ・東京大学TLO、東京大学エッジキャピタル

産学連携本部の新体制

2013年4月から



・イノベーション推進部の設置:
東大発の技術を社会実装する
道筋を多面的に探究

- * 共同研究開拓
- * ベンチャー支援
- * カーブアウトベンチャー
- * ライセンシング

・斬新な技術を核とした「歩幅の
広いイノベーション」を追求